

特集 太平記

太平記を読んでいてそのおびただしい死者の数に愕然とする。絵巻などで見る壮麗に編成された兵士の群れからは想像もできない。戦の規模によるが1個集団で2000人、うたれたつわもの1000人、自害、腹切り、首掻ききってと言う攻防は、そう少なくもないらしい。

つまりあの世があるかぎり、今生の義理は果たすべきというつもりか。

無知な私は人口が減ったらどうするつもりだろうと考える。不思議と2～3日すれば、なかったかのごとく、つわものは集まってくる。

対談・言語と文学——太平記にかかわりつつ ロバート キャンベル／兵藤裕己

- 赤坂憲雄 網野史学と南北朝時代史
- 野口武彦 回帰する『太平記』
- 川田順造 忠臣蔵と太平記
- 松岡心平 太平記にかかわりつつ任意
- 小秋元段 「雲景未来記」の批評精神と『太平記』の現実感覚
- 小川剛生 太平記にかかわりつつ任意
- 小島 毅 太平記と宋学
- 樋口大祐 太平記にかかわりつつ、騒然たる時代は何を生み出すか
- 若尾政希 太平記読み
- 福嶋亮大 再版された歴史意識——『太平記』の象徴的宇宙
など豪華執筆陣を……

先の第7号 日記の力 特集につづけて

田中宏輔氏の「詩の日めぐり」が連載になります。